

学級活動の授業分析

— アクティブ・ラーニングの観点から —

田 代 裕 一

An Analysis of “Classroom Activity” :
From the Viewpoint of Active Learning

Yuichi Tashiro

本稿では、特別活動における学級活動の授業分析を通して、これからの学校教育に求められるアクティブ・ラーニングの方法について検討した。A小学校での6年生の学級活動の事例を分析した結果、子どもたちが主体的に課題をとらえ、協働的にその解決を進め、さらに新しい提案を出して決定し、課題解決の見通しを持つに至っていることがわかった。このような実践の意義を考えることで、学級活動だけでなく教科の授業においても、子どもの司会や議論を取り入れた「会議」方式がアクティブ・ラーニングの一つの方法として可能性が示された。

1 本研究の目的

本研究の目的は、特別活動における学級活動の授業分析を通して、これからの学校教育に求められるアクティブ・ラーニングの方法について検討することである。アクティブ・ラーニングは「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習」¹⁾と言われているが、現在、学校教育において、どのように実施するかが喫緊の課題になっている。

それでは、我々はどこにアクティブ・ラーニングの示唆を求めればよいのであろうか。2008年の学習指導要領改訂は学力重視の方向に日本の教育の舵を

切り、その結果として、学校現場では国語や算数などの基礎・基本の育成が重視され、学力形成を目指した教育実践・研究が盛んにおこなわれるようになった。その一方で、総合的な学習や特別活動の研究発表は非常に少なくなった。現在、総合的な学習や特別活動等の「生きる力」の育成に関する教育実践や研究成果についてはほとんど顧みられない状況である。しかし筆者は、2008年以前の、「生きる力」の育成に真剣に努めていた時期の教育実践を再検討することが、これからのアクティブ・ラーニングを考える上でまず重要だと考える。特に、特別活動は、学習指導要領にも「望ましい集団活動を通して…自主的・実践的な態度を育てるとともに、…自己を生かす能力を養う」²⁾と記されているように、そもそもアクティブ・ラーニング的な活動である。そこで、過去のすぐれた特別活動、中でも教科の授業と同じ単位時間で行われている「学級活動」について検討することが重要であると考えた。ただ、アクティブ・ラーニングといっても子どもたちの活発な「活動」が表面的にただ多く行われればよいというものではない。松下は、ディープ・アクティブラーニングという概念を提唱し、学習の深さに目を向けることが必要であるとして、「深い学習」「深い理解」「深い関与」といった観点をあげている。³⁾本論においてもこれらの観点を意識して研究を進めていきたい。

また、今回、学級活動を分析する手立てとして、「発言表」⁴⁾による様相—解釈的な方法を用いる。授業実践の様相—解釈的研究とは、授業の構造的全体像を作成して、その全体像を分析検討の際、共通の判断基盤にして、授業の特徴・問題性を解釈し指摘するという、授業研究の方法である。筆者はこれまで、「発言表」を社会科、生活科の授業分析に多く用いてきたが⁵⁾、元々、議論（活発なコミュニケーション）を中心とした授業を対象とする方法であるので、学級活動における話し合いの分析にも効果的であると考えた。⁶⁾

ここで発言表の作成の手順について簡単に述べておく。発言表は基本的に、発言者名欄及び、発言状況欄からなる。発言状況欄には、授業記録上の全発言の長さを、縦の実線として記入する。本研究では授業記録での一行…24字程度を罫線の実線の一単位分になっている。さらに、授業において用いられた主要な言葉（テーマに関わる概念やイメージをよく示している言葉）を選び、記号

化して載せている。表中の発言で重要なものや、注目すべきものは点線で囲み、また、発言と発言の関係は線や矢印（……は言及的な発言、……は反論、……は質問—応答や、議論といった双方向的なやり取り、など）で表した。右の発言内容の欄には、その授業での内容展開や言語的応答関係を示す上で、重要と思われる言葉をそのまま抽出して記載している（14文字分）。発言表の原版はB4判サイズだが、紙面の都合上、縮小（縦・横ともに53%）している。

2 今回、取り上げる事例

今回、取り上げる事例は、福岡県A学校6年生D先生指導の学級活動の実践（「5年生へ手わたそう」2005年2月4日実施）である。この学級活動はF市の特別活動研究会において提案されたものである。この実践を取り上げた理由は、子どもの発言が多く、子どもの相互作用が活発であり、発言表による分析対象として適切だと考えたことによる。また、子どもたちの司会で進行しており、主体性、協働性が発揮される活動が行なわれていて、今後のアクティブ・ラーニングを取り入れた授業に対して示唆を与え得ると考えたことによる。

3 授業分析

今回の授業記録は、筆者が録画して、ゼミの学生に第一次的な文章記録を作成してもらい、筆者が最終的にまとめたものである。研究への活用については担当教諭に授業当日、了解を頂いている。事例の分析に際しては、文末の「発言表」を参照されたい。Tは教師の略号。Cは不特定多数の子ども、もしくは発言者不明の子どもの略号である。

○「5年生へ手わたそう」2005年2月4日（金）6時限目 以下の分節分け、および分析は筆者による。

・第1分節（司会A1～記録係15）

全員で学級目標を唱和し、司会が「初めの言葉（今回の学級会への意気込み）」を述べている。また、学級会の進行を担当する委員（司会A・B、黒板書記）の紹介がある。

・第2分節（司会 A16～T22）

司会 A が本時の課題を示した後、TE が提案理由（これまで続けてきたあいさつ運動を5年生に引き継いでもらい、あいさつの輪が校区からS区に広がってほしい）を述べ、司会 B が話し合いのめあて（観点を意識しながら、皆で充分に話し合っ、5年生が気持ちよく引き継いでくれるような意見を出し合おう）と観点（最上級生としての活動になっているか、5年生がやる気になるような内容になっているか）を確認し、教師が本日の話し合いの趣旨や自分の思いを述べている。

・第3分節（司会 A23～FK53）

あいさつ運動を5年生に引き継いでもらう方法について、5つのグループから以下のような提案がなされている。「5年生と一緒にあいさつ運動をする」「ポスターを作って目立つところに貼る」「あいさつ運動をビデオに映して伝える」「写真・アンケート・絵を用いて、あいさつ運動の良さや自分たちの強い気持ちを伝える」「代表を決めて直接言いに行く」

・第4分節（司会 A54～T59）

どの提案に賛成か反対か、自分の意見をまとめるように司会 A が指示し、子どもたちは黒板の各グループの欄に自分のネームプレートを貼っている。

・第5分節（司会 B60～C93）

「(5年生と)一緒に活動する」と「直接伝える」を合体したらどうかという意見が出ている。次に、「直接伝える」にビデオで伝えるも含めたらどうかという意見もが出て、それに対する質問が出ている。さらに、「一緒に活動する」「直接伝える」「あいさつの良さとみんなの強い気持ちを伝える」を一緒にするという意見が出ている。

・第6分節（司会 A94～C140）

「ポスターで伝える」への反対意見が出て、ポスターグループと他の子どもたちとの間で質問一応答がなされている。さらにポスターを見合わせるかどうかを検討され、「皆の強い気持ちを伝える」とポスターを合わせたらいという意見が出て、承認されている。

・第7分節（司会 B141～C166）

話題は再び、提案をどう組み合わせるかという話になり、全部組み合わせるという意見が出ている。それに対して、HKは「直接伝える」の中に「ポスター」「皆の強い気持ち」「ビデオ」は入るが、「一緒に活動する」はその後の話だから、一つにするけど、その中の二項目にする、といった意見を出し、皆に承認されている。

・第8分節（司会 A167～C200）

司会が期間中にどのような活動をするのか1分間、考えるように指示する。UDは「直接伝える」にビデオで伝えるというのと写真で伝えるというのがあるが、説明の時間の関係からどちらか一つにした方がいいのではという意見を出している。子どもたちからビデオでいいという発言が多く出ていたが、その後、教室に写真を貼っておけばいいという意見が出て、組み合わせるといった結論になっている。

・第9分節（司会 B201～司会 B214）

UTから、期間中だけでは一緒にあいさつ運動を行うのに時間が足りないので、期間が終わってからもやった方がいいという提案が出て、皆の支持を得ている。

・第10分節（司会 A215～T232）

司会が今回の学級会で決定した内容を確認している。さらに一番発表した人が確認され、HKさんとの意見が出て承認されている。その後、教師の講評や記録係による終わりの言葉が出ている。

○授業の発言状況

子どもたちが司会をしていることもあり、教師の子どもたちへの直接的な発言は7回だけである。しかし、教師は司会の子どもに紙上で指示したり、助言をしたりして、会の進行の補助をしている。一方、子どもたちの発言は225回（司会90回、その他の子ども135回）である。二人の司会もかなり発言しており、司会と他の子どもたちとの発言比は、1対1.5であった。子どもの中で発言が多いのはHKで、総発言回数は（グループ提案を含んで）15回、総発言

量は55単位であった。

第1分節では、司会Aが7回、司会Bが3回発言して、本日の学級会の進行についてCと対応しつつ、説明している。Cは3回、記録係は1回発言している。司会A11の2単位の発言以外はどれも1単位の短い発言である。

第2分節では、司会A16が3単位の発言をして、議題について説明している。TE17も4単位の長い発言をして、提案理由を丁寧に述べている。その後、司会Bが19・20で2回発言して、今回の活動の観点を確認し、教師がT22で8単位の発言をして抱負を述べている。このように各自、丁寧に考えを述べている。

第3分節では、司会A23の3単位の発言の後、各グループの子どもたちが発表している。ただ、グループのメンバーには資料の掲示などを主に行っていて、発言（音声による発表）はしていない者もいる。まず、1番目のグループではHK24が5単位、HR25が3単位、MI26が3単位の、比較的長い発言をしている。2番目のグループは2名であるが、ST30が4単位の発言をしている。3番目のグループはKS34が5単位、UN36が3単位の発言をしている。4番目のグループでは、まずUNが40・42・46で各2単位の発言をしている。また、HO41が1単位、KUが5回発言して43・45で3単位の発言をしている。このように、3名で細かく発表を分担している。5番目のグループは2名であるが、FKが50で2単位、51で3単位の発言をしている。各グループの発表の後、質問を受けているが、ここでは子どもたちから質問は出ていない。

第4分節では、司会Aが3回、司会Bが1回、教師が2回発言して、子どもたちにネームプレートを黒板に貼るように指示している。

第5分節では、司会Bが60・61で子どもたちに各グループの提案への意見を求めている。まず、UT62が3単位の発言をしている。さらにHKが64で発言を求め、66で5単位の発言をしてUTの意見を支持している。MN70は3単位の発言をしてHKに賛成している。その後、Cの発言が断続的に出ている。Cの発言後、FK79は2単位の発言をして第1グループに質問している。それに対してHKが80・82・84で丁寧に答えている。特に82は4単位、84は3単位の長い発言である。このように子どもどうしで質問—応答がみられる。そ

の後、MZ88 が 3 単位、TA92 も 3 単位の発言をして UT62 に関連した発言をしている。司会 A は 6 回、司会 B も 4 回発言して発言者の指名や発言の促進をしている。

第 6 分節では、司会 A94 の意見の促しに応じて、MI95 が 4 単位の発言をして第 2 グループの提案に反対意見を出している。HK99 もこの MI に関連して 6 単位の発言をしている。HR102 も 2 単位の発言をして、第 2 グループに質問をしている。このように第 1 グループの者から第 2 グループに対する質問が出ている。これに対して第 2 グループの FU が 104・106 で答えている。続いて HY110 も同グループに質問し、FU112 が答えている。KD116 も同グループに質問を出し、FU117 が答えている。UT121 は FU に対して自分の意見を出している。その後、HK125 から第 2 グループに質問が出て、ST127 が対応している。司会 A129・130 が議論の結論について全体に問いかけ、HK132 が 5 単位の発言でまとめる意見を出している。UN137 も HK に同意し、HK の提案がクラスの結論になっている。

第 7 分節では、司会 B141 の意見の促しに対して、NH143 が 4 単位の発言をして意見を出している。YO も 145・147・149 で発言し、NH に賛成している。HK153 も 6 単位の発言をして賛成している。HO157 も 3 単位の発言をして賛成している。司会 A162 の確認に対して HK163 は少し修正した案を出している。司会 A165 はこの HK の案でいいかと子どもたちに尋ね、承認を得ている。

第 8 分節では、司会 B171 の発言の促しに対して、UD が 172・174・176・178 で発言し、子どもたち全体に質問をしている。HK181 は 4 単位の発言をして UD に応答している。HK の意見に UN185 や MI188 が賛成している。その後、YO191 が 4 単位の発言をして、提案している。さらに UD195 が 5 単位の発言をして、YO と少し違う提案をしている。この UD の発言について司会 A197 が全体に確認して、子どもたちの承認を得ている。このように本分節は UD がまず質問して、最後、また UD がまとめる形になっている。

第 9 分節では、司会 B201 の質問の促しに対して、UT202 が新たな提言をしている。これに対して MN206 や HK210 が賛成している。なお、HK210 の発言は 6 単位の長いものである。この UT の提案を司会 B212 が全体に確認して

承認を得ている。

第 10 分節では、司会 A215・216、司会 B217 が決定事項を確認している。また司会 B221 の発言の促しに HY222 が提案を出し、子どもたちが承認している。これを受けて司会 B224 や教師が T225 で再確認をし、司会 B226 が決定している。その後、教師が T229 で 11 単位の長い発言をして本時の講評を述べている。記録係 231 も本時の評価を短く行っている。

第 1、第 2 分節では、活動のめあてや提案理由、観点の確認などが中心で、司会が主に発言していた。第 3 分節は提案グループの発表でグループの子どもたちが主に発表して、比較的、長い発言が続いていた。第 4 分節は司会者や教師の指示の発言が主であった。第 5 分節では UT の提案があり、その後連続して子どもたちが発言していた。UT に言及する発言が多かった。また、FK と HK の間で質問—応答もみられた。第 6 分節では UN の質問を契機に、ポスターグループ対他の子どもたちとの間で質問—応答が多くみられた。第 7 分節は NH から新たな提案が出て、検討がなされていた。第 8 分節では UD から全体への質問があり、関連する発言が相次いで出ている。第 9 分節では UT から新たな提案が出て、賛成する意見が多く出ている。第 10 分節では教師が 11 単位の長い発言をして本時の活動を評価していた。このように見てくると、グループの提案を受けた後、子どもたちから積極的な意見、質問、提案が次々に出され、全体で検討され、確認される、といった子どもたちの主体性、協働性がよく見られる話し合いになっていた。また本時、HK は 3 分節（提案の箇所）、第 5 分節～第 9 分節において多くの発言をして、議論をまとめていた。また、UT は、発言はあまり多くないが、貴重な提案を行っていた。

○主要な言葉の展開状況

この学級活動で、全般的に多く出ているのは、あいさつ運動、引き継いでである。これらは本活動の目的に強く関わる言葉である。

第 1 分節では、会の進行について確認されており、主要な言葉は出ていない。

第 2 分節では、司会 A16 があいさつ運動、引き継いでを用いて、本時の議

題（あいさつ運動を5年生に引き継いでもらう方法を考える）について説明している。TE17もあいさつ運動、引き継いでを用いて提案理由を丁寧に説明している。司会 B19 も引き継いでを用いて、話し合いのめあてを述べている。教師も T22 であいさつ運動、引き継いでを用いて、本時の学級会への抱負を述べている。このように本分節では引き継いでが4回、あいさつ運動が3回用いられており、本時の主題が強調されている。

第3分節では、司会 A23 が組み合わせを用いて、提案グループに発表するように促し、またそのグループの提案に対して質問したり、いいところを組み合わせたりするように全体に指示している。第1グループでは HK24 が5年生と一緒に、あいさつ運動、良さ、引き継いでを用いている。HR25 はあいさつ運動、良さ、MI26 はあいさつ運動、良さ、引き継いでを用いている。このように5年生と一緒に活動することであいさつ運動の良さを伝え、引き継いでもらうことができると、丁寧に説明している。第2グループでは ST30 がポスター、あいさつ運動、良さをを用いて、目立つところにポスターを貼ってあいさつ運動の良さを伝えると主張している。このグループも良さを伝えることを重視している。第3グループでは KS34 があいさつ運動、ビデオ、HA36 もビデオ、あいさつ運動を用いてビデオで伝えることを簡潔に述べている。第4グループでは UN40 が引き継いで、あいさつ運動、良さ、強い気持ちを用いて、自分たちの案の主旨を説明している。HO41 もあいさつ運動、写真、強い気持ちを用いて、写真を用いると述べている。KU43 はアンケート、あいさつ運動、良さ、絵を用いて、アンケート、絵という方法を提言している。このようにあいさつ運動にかける（自分たちの）強い気持ちを伝えること、またその方法として写真、アンケート、絵といった多様な手立てを提案している。第5グループでは FK50・51 が直接伝えを用いて、シンプルに提案している。

第4分節では、司会 A54 が賛成、反対を用いて、各グループの提案に対して、賛成反対など、自分の意見を決めるように指示している。

第5分節では、司会 B60 が賛成、反対を用いてみんなに意見を出すように促している。UT62 は反対、5年生と一緒に、直接伝え、組み合わせ、あいさつ運動を用いて、反対とかではないが、「一緒に活動する」と「直接伝える」を

合体させたらいいと述べている。HK66は5年生と一緒に、直接伝え、組み合わせ、ビデオを用いて、一緒に活動するためには呼びかけないといけないと理由を述べて、この意見に賛成し、さらにビデオなども合体できる、と組み合わせる範囲を広げている。MN70は賛成、5年生と一緒に、ビデオを用いて、HKの意見に賛成している。その後、Cから賛成、反対といった発言が連続して出ている。FK79は5年生と一緒に用いて、第1グループ（一緒に活動する）に、5年生は数が多いので、どうやって一緒に活動するのかと質問している。これに対して、HK82はあいさつ運動を用いて、その具体的な方法を丁寧に答えている。その後、MZ88は5年生と一緒に、直接伝え、良さ、強い気持ち、TA92は直接伝え、あいさつ運動、良さ、強い気持ち、アンケートを用いて、「一緒に活動する」「直接伝える」に「あいさつ運動の良さとおみんなの強い気持ちを伝える」も付け加えることを提案している。このように、本分節では司会を除いた子どもたちから賛成が7回、5年生と一緒に5回、直接伝えが4回、あいさつ運動が3回、反対、組み合わせなどが2回出て、各提案を組み合わせることをめぐって検討が深められている。また組み合わせることへの賛成が多く出ている。一方、司会からは賛成と反対が1回出ている。

第6分節では、MI95がポスター、反対、見ない人を用いて、ポスターを提案した第2グループに対し、ポスターは見ない人がいると反対意見を出している。HK99は賛成、反対、ポスター、見ない人を用いて、賛成、反対とかではないが、ポスターは見ない人もいるのでその解決を考える必要があると述べている。HR102はポスター、見ない人を用いて、提案したグループに対して、目立つところにポスターを貼るといったが、それはどこかと尋ねている。ここで発言している3名の子どもたちは「一緒に活動する」を提案したグループのメンバーで、直接的な対応を重視しており、間接的なポスターグループとは対照的な立場にあるといえよう。その後、ポスターグループからFU104・106の回答があるが、さらに他の子どもから質問が出ている。UT121はポスターを用いて、ポスターを5年生の各教室に貼ったらどうか、と提案している。HK125は引き継いで、ポスターを用いて、5年生に引き継いでもらうことが目的であるので、他の学年が見てもあまり意味はない、5年生に伝える方法として提案

グループはポスターをどのように考えたのかという質問を出している。これに対してポスターグループのST127はそこまでは考えていなかったと答えている。司会A129はポスターを用いて、ポスターはどうか、と皆に尋ねている。HK132はあいさつ運動、良さ、強い気持ち、絵、組み合わせ、ポスターを用いて、ポスターも何かで使える、「挨拶運動の良さ強い気持ちを伝える」という提案の中にも絵があったから、同じようにポスターも「挨拶運動の良さ強い気持ちを伝える」に組み合わせたが良いと述べている。UN137は賛成、絵、ポスター、組み合わせを用いて、HKに賛成し、絵で伝えるとポスターは重なると発言している。これらの発言を受けて司会B139は組み合わせを用いて、組み合わせることを子どもたち全体に確認し、承認を得ている。この分節では司会からポスターが2回、組み合わせるが1回出ている。それ以外の子どもからはポスターが7回、見ない人が3回出ており、ポスターを見ない人がいることをどう考えるか、どう解決するか、といった問題に焦点を絞った追究がなされていたことが伺える。UT102の発言は問題解決に関しての新たな提案になっている。また、HK125の問いは、5年生に伝える方法としてのポスターの意味について担当グループの見解を尋ねるもので、深い問いかけになっている。

第7分節では、NH143が直接伝え、良さ、組み合わせ、強い気持ち、ビデオを用いて、「直接伝える」「あいさつの良さ、強い気持ちを伝える」「ビデオで伝える」「一緒に活動する」を組み合わせればよい、といった意見を出している。これは、第5分節で出た話題であり、最後の方で出ていた意見にビデオもつけ加えたものである。YOは147で賛成と直接伝え、149で強い気持ちを用いて、NHを支持し、5年生に説明して納得してもらってから一緒にやればよいとその段取りを示している。HK153は組み合わせ、賛成、直接伝え、強い気持ち、ビデオ、5年生と一緒に用いて、どれも直接伝えるに入るし、その後3クラス一緒に活動することができると、実現可能性に言及している。また、グループで自分たちが提案した一緒に活動することと関連させて考えている。司会B159は直接伝え、5年生と一緒に、組み合わせを用いて「直接伝える」「一緒に活動する」と「気持ちを伝える」を合体していいかと問いかけ、子ど

もたちの承認を得ている。その後、司会 A162 が（教師の指示を受けて）、組み合わせをどういう組み合わせにするか意見を出すように、子どもたちに求めている。HK163 は組み合わせ、直接伝え、ポスター、強い気持ち、ビデオ、5年生と一緒に、今まで出てきた多くの言葉を用いて、「直接伝える」に「ポスター」、「強い気落ち」「ビデオ」などを入れるが、「一緒に活動する」はその後のことなので、一応、一つにするがその中の二項目にすればよいと、これまで出た内容を整理して示している。司会 A165 がこの提案を全体に確認し、承認を得ている。

第8分節では、司会 A167 が期間中を用いて、具体的に期間中、どのような活動をするか考えるように指示している。司会 B171 も期間中を用いて、活動期間（2月28日から3月4日）を確認し、期間中の活動を考えるように指示している。しかし、UDは172で皆に質問があると述べ、174で直接伝え、ビデオ、あいさつ運動、良さ、強い気持ち、176であいさつ運動、良さ、強い気持ち、写真、178で5年生と一緒に、ビデオ、写真を用いて、「直接伝える」の中に写真とビデオが含まれているが、説明が長くなるのでどちらかに決めたいという提案をしている。HK181はビデオと写真を用いて、両者を比較してビデオがいいと発言している。UN185はビデオ、写真、MI188は賛成、5年生と一緒に、写真、ビデオを用いてHKへ賛成している。YO191はビデオ、賛成、写真を用いて、ビデオに賛成だが、写真も注意点などを示すことができるので、最後に写真も映したらいいいという案を出している。UD195はビデオ、写真、良さをを用いて、ビデオを見せてから写真を見せて説明するのではなく、各教室に貼っておいてもらえばあいさつ運動への理解が深まると発言している。司会 A197は写真、ビデオ、組み合わせを用いて、写真とビデオを組み合わせたいかと子どもたちに尋ね、了解を得ている。教師の指示もあり、司会 B199がビデオ、写真、5年生と一緒に、組み合わせを用いて、ビデオと写真と「一緒に活動する」を組み合わせることでもいいか、と再度確認し、皆の承認を得ている。この分節で司会 A・Bは、期間中、具体的な活動をどうすすめるか（時系列的な進行）を確認するために、期間中を用いていたが、子どもたちからはビデオと写真が7回用いられるといったように、ビデオと写真のどちらかにする

か、という点が検討されていた。司会者以外に期間中を用いる子どもはいなかった。そして問題提起をしたUDが、ビデオと写真の関係づけを最終的に行っていて、UDに始まりUDに終わる分節になっていた。

第9分節では、UT202が5年生と一緒に、期間中、期間が終わってからも、あいさつ運動、引き継いでを用いて、あいさつ運動を引き継ぐのに日にちが少ないから、期間が終わってからも一緒にやるのは続けた方がいい、という提案をしている。これに対してMN206は賛成、期間中、期間が終わってからも、5年生と一緒に、を用いて賛成している。HK210も期間中、5年生と一緒に、期間が終わってからも、あいさつ運動、賛成を用いて、各クラスでの（説明は）1日で終わるけど、残り4日で100人位（5年生の数）を分けて一緒に活動するのは難しいので、期間後も一緒に活動することに賛成すると発言している。これは具体的な日数や人数を考慮した上での発言である。これらの発言を受けて、（教師の指示もあり）司会B212も期間が終わってからもを用いて、期間が過ぎても活動することでよいのか皆に尋ね、了解を得ている。

第10分節では、司会A216が、組み合わせ、ビデオ、写真、5年生と一緒にを用いて、本時に決まったこととして結局すべて合体した、具体的にはビデオと写真を一緒に活動して、「一緒に活動する」に組み合わせたと述べている。さらに、司会B217は期間が終わってからもを用いて、期間が過ぎて活動することになったと述べている。その後、教師はT229で5年生と一緒に、ビデオ、写真、期間が終わってからも、賛成、嬉しかった、あいさつ運動を用いて、どうやって5年生に伝えていくかが決まった、一緒に活動していくことと、ビデオと写真とかを使って教室に行き説明しながら進めていく、と述べ、さらに期限を過ぎて一緒に活動した方がいいという意見が出て、皆が賛成してくれて嬉しかった、と感想を述べている。

このように本授業は全般的に司会と子どもたちで進行しており、結論もクラスの皆で承認していた。教師は、第1分節、第2分節、第4分節、第10分節で散発的に出ているぐらいであった。ただ第2分節と、最後の第10分節では長い発言をして、本時の主要な言葉を多く用いていた。

第1分節では主要な言葉は用いられていなかった。第2分節では、教師

と司会があいさつ運動、引き継いでを用いて、本時の議題を丁寧に確認していた。第3分節では司会Aが組み合わせを用いて指示していた。提案グループはそれぞれの案を出していたが、その中で良さが3つのグループで計7回用いられており、あいさつ運動の良さを5年生にアピールし理解してもらうことが重視されていたことがわかる。特に第1グループはあいさつ運動にどのような良さがあるかも具体的に述べていた。また、第4グループは良さの他に、強い気持ちも4回用いており、あいさつ運動への強い気持ちを伝えることを強調していた。第4分節および第5分節では司会が賛成、反対を用いて、グループの提案に意見を出すよう求めている。第5分節では、子どもから組み合わせが出て、各グループの提案を組み合わせることが検討されていた。第6分節では、ポスターの他に反対が用いられて、ポスターという方法の是非が問われていた。第7分節では、組み合わせが司会と子どもから計6回用いられて、再度、提案を組み合わせることについて検討されていた。第8分節では、司会が期間中を用いて、意見を求めているが、子どもたちは、ビデオと写真を多く用いて、その選択について検討していた。第9分節では、期間が終わってからも3回出て、期間が終わってからも一緒に活動することが承認された。第10分節では、司会が組み合わせ、期間が終わってからもを用いて、全部、組み合わせることになった、期間がすぎても一緒にやることになった、と結論を確認していた。また、教師は嬉しかったを用いて、期限が終わっても一緒に活動することになったことに言及していた。ここでは教師が、子どもの主体的・協働的な活動について高く評価していることがみてとれた。

以上のように、本時は提案の組み合わせや取捨選択をめぐって活発に意見が出ていた。特にポスターの是非や、写真とビデオの選択については詳しく検討がなされていた。さらに期間外にも（5年生と）一緒に活動を行うという新たな提案も出て、支持を得ていた。ただ、最後の方で新しい、大きな提案が検討されていた分、期間中の具体的な活動のスケジュールについてはあまり検討されないうえ終わったといえる。しかし、それまでの話し合いをよく検討してみると、各活動の順序や場所などが確認されている

し、また、具体的日程は次回以降の学級会でも検討できるので、問題はないと思われる。なお、HKは大変多く発言し、その中で主要な言葉を多く用いているので、どこでも、また、何にでも発言しているようにも思えるのであるが、詳細に検討すると、自分たちのグループが提案した「一緒に活動する」ことが十全に実行できるように、その前提となる活動や条件などについてよく考えて、丁寧に意見を述べていたことがわかる。その意味で話し合いに深く関与し、責任のある発言をしていたのである。

また、本時の話し合いでは、提案について論理的に検討されているだけでなく、(あいさつ運動にかける自分たちの)「強い気持ち」が第3、第5、第6～第8分節で用いられていた。このように、あいさつ運動を引き継いでもらうことに関して論理(ロゴス)だけでなく、共同的な感情(パトス)が絶えず確認されることで、協働的な活動(集団での話し合い)がより促進されていたといえよう。

4 まとめ…本実践の意義とアクティブ・ラーニングを用いる授業への示唆

以上、A小学校での6年生の学級活動の事例を分析した。この実践は子どもたちが主体的に課題(5年生にあいさつ運動を引き継いでもらう)をとらえ、協働的にその解決を進め(方法の提案、およびその組み合わせ・位置づけ)、さらに新しい提案(期間外にも一緒に活動をする)を出して決定し、課題解決(実践化)の確かな見通しを持つに至っている。このように、子どもたちは活動に深く関与し、深く提案を検討し、深く納得できる結論に達しているのである。この意味でディープ・アクティブラーニングになり得ているといえる。また、例えば、先の分析でみたHK125の問いかけは、グループ提案の本質を問い質すものであり、いわば「深い問いかけ」といえよう。このような深い問いが子どもの側から出ることも、授業において重要である。

次に、具体的な方法論について述べてみたい。本実践のように(教師の間接的な指導を受けつつも)子どもたちで話し合いの進行や問題の追究・解決ができるという事実を考えれば、学級活動だけでなく教科の授業においても、子ど

もの司会や議論を取り入れた「会議」方式をアクティブ・ラーニングの一つの方法として取り入れてみる価値があるといえるのではなからうか。⁷⁾無論、それぞれの教科の授業には様々な目標があり、それに応じた形態が当然、想定されることから、全ての授業でということではないが、授業の必然性に応じて少なくとも单元の中で1回でも設定されれば、子どもたちの主体性や協働性を促進する学習が展開できる可能性がある。また、積み重ねていけば思考力、判断力、表現力といった学力の形成につながることも期待できよう。さらに、本実践では簡単に二者択一（多数決など）で一義的な結論を出したり、逆に安易な折衷案を出したりというのではなく、多義性（多様な提案・意見）を生かしつつも、統一感のある結論に至っていた。この点も、特に議論を取り入れる授業に対して参考になる。本実践では、このような議論の際に、論理（ロゴス）の展開だけでなく共同的な感情（パトス）の維持・形成に配慮することも必要だということが示されている。

最後に、教師の指導性について述べたい。本実践での教師の子ども全体への直接的なメッセージは主に最初と最後だけであり、あとは司会者に進行の助言を（紙上での指示や耳打ちによって）行ったり、記録係にどのような点を板書するのかを素早くジェスチャーなどで指示したりしていた。このように、あまり教師が直接、指導をしなくても、むしろその分、子どもたちは自分たちで考えて、責任を持って話し合いを進めることができていたのである。ただし、事前の司会者との打ち合わせや計画などの準備は十分になされている筈である。このような教師の間接的な指導のあり方も、教科の授業でのアクティブ・ラーニングに援用できると考えられる。

学力重視の教育政策の推進のもとで、2008年度から、特別活動や総合的な学習、生活科などはいわば「等閑視」されて来たともいえるが、この事例のように、今後の教育に重要な示唆を与え得る充実した実践が過去に行われていたのである。とすれば、教育界の「流行」を次々にただ追いかけるのではなく、教育現場においてこれまで蓄積されてきた貴重な実践を掘り起こして、新たな視点から再検討を行い、その意味を明らかにすることが授業研究者の重要な使命だといえよう。そのためには、事実に基づく詳細な授業記録、実践記録を作

成して蓄積していくことが必要なのである。⁸⁾

[注]

- 1) 文部科学大臣諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」2014年11月 文部科学省ホームページ。2016年9月25日検索。
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1353440.htm
- 2) 小学校学習指導要領 平成20(2008)年度版における1.目標の記述。ちなみに、その前の平成10(1998)年度版でも同様の記述である。
- 3) 松下佳代・京都大学高等教育研究開発推進センター編著『ディープ・アクティブラーニング』勁草書房 2015年 24頁。
- 4) 「発言表」の原理については下記の論文を参照されたい。中村亨「発言表を使用する授業分析 ―授業における子どもの相互関係にふれて―」『教育方法学研究』第12巻 1987年。
- 5) 比較的最近のものとしては、田代裕一「授業実践の様相―解釈的研究 ―グループ活動を含む授業事例の分析―」 教育方法学研究第35巻 2010年、田代裕一「授業実践の様相―解釈的研究 ―生活科『しぜんの生きものたんけん』の言語的トボス―」 西南学院大学人間科学論集第11巻第1号 2015年、などがある。
- 6) 筆者はかつて「発言表」を用いて、中学校の学級活動をコミュニケーションの観点から分析したことがある。「特別活動の実践研究 ―発言表による授業の様相―解釈―」九州教育経営学会紀要 2005年 67頁―75頁。
- 7) 例えば、試みの段階ではあるが、現在、西南学院小学校では会議方式の授業が一部のクラスで実施されている。筆者もその運営・研究に協力した、第52回日本教育方法学会の公開授業・研究協議会(西南学院小学校2016年9月30日)では、「児童理解に基づいたアクティブ・ラーニング授業の試み」というテーマで、社会科や国語において会議方式の授業が実施された。
- 8) 授業記録の意義や要件については次の論考を参照されたい。田代裕一「授業記録に基づく授業評価」『教育方法学研究ハンドブック』所収 日本教育方法学会編 学文社 2014年 374頁―377頁。

福岡県 A小学校 6年 D先生指導 学級活動 ②

福岡県 A小学校 6年 D先生指導 学級活動 ②													「5年生へ手わたそう」2005年2月4日												
授業における発言内容の一部													各分節での主要な言葉												
教師 司会 AB 他の子ども													教師 司会 AB 他の子ども												
I													(前表に記載)												
I													3												
I													4												
I													5												
I													6												
I													(後表に記載)												

Handwritten annotations on the grid, including circled numbers (50, 60, 70, 80, 90) and vertical bars with numbers (1, 2, 3, 4, 5, 6) indicating time intervals or specific points in the lesson.

本音の思いを5年生に伝える事は
この機会をした理由は
皆の思いを伝える事が大切
ありません
これで終わります

最後のグループ、代表者
代表者を決めて直接言いに行く
んがとっている。質問も受ける
何よりも、気持ちがある
心こもっているで5年生
それを伝えてくれると助かるので
ありません
これで終わります

今言われた説明で自分の考えを
まとめて下さい。時間は1分間
良いを、無理な、反対
な意見を時間を決めて下さい
自分の意見のメモシートを

(黒板に自分のプレートを貼って、意見を表明している。)

取り残された人は早く席について
おまっとならなからな
1分になったので、やめて
貼っていない人は自分で貼ってね
黒板意見や反対意見を貼って
UT君

問題点とか反対意見、ではない
一緒に活動する。直接伝える
合流したいらいいと思います
わかりました
UT君の意見に賛成します

HKさん
私も賛成者だけど、いいと思い
一緒に活動するためにほ
暗い暗いというか、言いで
行かなくていいし、おま
ビデオでも一緒に伝える事が
わかりました
賛成意見です

MNさん
HKさん達の意見に賛成です
一緒に活動する前に伝えてから
活動した方がやりやすいし、
わかりました

他に意見ありますか
毎
賛成意見
反対意見
質問があります
賛成

FKさん
一緒に3クラス5年生がある
どうやって聞いていんですけど
今の意見があります

HKさん
5年生全部に伝えるわけだから
できれば3クラスともやりたい
3、4人だったらまあ何とかな
私達は結構やれているから、期
はい
5年生をサードしながら
こうなるといいんだけど
2人から4人入るクラスつ
わかりました

他に意見ありますか
MZさん
一緒に活動する。直接伝える
あいさつの良さ、強い気持ち
一緒にすればいいと思います
わかりました
MZさんの意見に賛成

TAさん
私もMZさんと一緒に
直接伝えると同時に、良さと
強い気持ち、アンケートで
わかりました

他に意見ありますか
ボスケーで伝える。反対意見
皆が見るからいいけど
知らない人だと悪うんで
私は反対になりました
わかりました

今の関連して何か意見は
HKさん
賛成とか反対、じゃなくて

- ○ ○ ○ ○
- & & & &
- & & & &
- @ @ @ @ @
- ▲ ▲ ▲ ▲ ▲
- PK ○ ○ ○
- CG ○ ○ ○
- GA ○ ○ ○
- A

福岡県 A 小学校 6年 D 先生指導 学級活動 ④		「5年生へ手わたそう」2005年2月4日	
授業における発言内容の一部		各分節での主要な言葉	
教師		教師	
1	H0さん	NHさんの意見に賛成 直接伝える 意見を合わせれば どれもできる どれもいい家 わかりました	(前表に記載)
2	前線伝える 一緒に活動をする	7	
3	他に意見はありませんか もう一度意見を出していただけます どういう順番合わせにするか 全席組み合わせてもいいけど 直接伝える 一緒に活動 後の 一つの中に項目として わかりました		
4	HKさんの意見でいいですか はい		
5	期間中にどのような活動をする 1分間話し合っています		
6	(1分間、まわりと話し合っています。)		
7	話し合うのをやめて下さい はい		
8	期間の中のように決めて こんな5年生になってほしい 音に開眼がある		
9	UD君 直接伝える ビデオで伝える 良さ 強い気持ち 入りました はい 良さ 強い気持ちを伝える あいさつ運動の写真をを見せて はい 写真を見せて ビデオを見せる 説明が長くなったとして わからなくなるかもしれない どちらにしろいいかを探め わかりました		
10	HKさん	ビデオの方がいいと思いましたが さっき見たやつは声が聞き取り にくかったけど それでも ビデオの方が 聞きがわかる わかりました	9
11	何か意見はありませんか UNさん		
12	私も愛着がから言うのも ビデオの方がいいと思います 私が写真を見せた時 ぼけたり わかりました		
13	MTさん	賛成意見です 一緒に活動する1の提案者 ビデオ 聞きも見れるし、声も 聞こえる 写真だったら動きは わかりました	
14	YOさん	ビデオに賛成で、だけど写真が 使った方がいいのであれば 誰かに写真も撮ってもらうに わかりました 他に意見はありませんか UD君 YOさんの意見なんですけど ビデオ あいさつの良さ 理解 各クラスに写真を一枚ずつ渡し 戻してもらったけど 写真を見ようって理解を深められ わかりました 写真とビデオを一緒に合わせて はい もう一度確認 ビデオと写真と はい 別の意見はありませんか 一緒に活動 期間中だけでなく 期間前後のからも一緒に 期間中、日にちが 少ない わかりました 賛成意見です	
15	MNさん	UT君に賛成意見です 期間中 1日に10人以上 活動する期 わかりました 間違えて意見はありませんか HKさん	

福岡県 A小学校 6年 D先生指導 学級活動 ⑤

同記 司会 会録		H M S K H U H K F U M M T F H K N Y U C E K R I T S A I N O U K T N Z A U Y D H O D													「5年生へ手わたそう」2005年2月4日 授業における発言内容の一部 教師 司会 AB 子ども		各分節での主要な言葉 教師 司会 AB 他の子ども			
																		期間中も一緒に活動する方が いいと思いました。理由は 期間中だったら伝えにくいもの 1クラスは1日で、残り4日で 期間長 ちよっと卒業まである やらうっていう気になってくれ わかりました	9	(前表に記載)
																		期間が終わっても活動する はい		
																		他に何かありませんか 表ました事の確認をします 一つはやらない 間違えました 結局全て合体しました ビデオと写真と一緒に活動して 期間が終わっても活動する 決まった事の確認を終わります はい		& Φ Π P ○ ▽ @
																		一番発表したと聞くと人々決め HY君 H Kさんだと聞いてます 同じです		Φ Π & P
																		他にありませんか この人の発言良かったって 一緒に決まっていけないけど 一番発表した人はH Kさん はい	10	
																		各々の話です 色々な 親山直見が出て どうやって5年生に伝えていく パッチリ決まりました 直接、一緒に活動していく ビデオと写真 教室に行つて 説明しながら進めていく 期間中でも活動した方がいい 直見が出て音が録音してくれ 本気で楽しかったです 強い質問 訪ね一方 頑張って 後は、活動していくことが大切 終わりの言葉です これから 委員会に行きますので 幹事用具を持って6の4に到着		

*本授業で出た主要な言葉とその記号

- @.....あいさつ運動
- Ψ.....引き継 (いで・ぐ)・受け継いで
- Φ.....組み合わせ、合わせ、合体
- &.....5年生と一緒に、一緒に活動
- G.....良さ
-ポスター
- Φ.....ビデオ
- Π.....写真
- A.....アンケート
-絵
- ♥.....強い気持ち・強い思い
- Σ.....直接伝え、直接言 (い・う)
-賛成
- ▲.....反対
- θ.....見ない人
- T.....期間中、期間の中
- P.....期間が終わって (から) も、期間後も、期間 (が) 過ぎても
- ♡.....嬉しかった

注①：発言者名欄で、男児は記録係、TE、ST、UT、FU、HY、KD、UD、女兒は司会A・B、HK、HR、MI、KS、HA、UN、HO、KU、FK、MN、MZ、TA、NH、YDである。
注②：発言者名欄で、G1と記してあるのは第1グループを表している。その他もグループの表記である。